

I

ディプロマ・ポリシーと カリキュラム・ポリシー

1	ディプロマ・ポリシー	6
2	カリキュラム・ポリシー	13

1 ディプロマ・ポリシー

1. 教育目標

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場である」という使命のもとに、総合的な教養と高度な専門性を身につけたグローバル女性リーダー、すなわち、「教養知と専門知」「学芸知と実践知」および「高い公共性」を備えた社会人を養成する。この教育目標のもと、各学部にて所定の年限在学し、全学ならびに学部の教育理念と教育目的に沿って設定された教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に、それぞれの学部が定める学位を授与する。

2. 教育課程

- ①各学部各学科が設置する専門教育プログラムを、各学部各学科が定めるプログラム選択の規定に従って、2つ以上履修する。
- ②文教育学部人間社会科学科総合人間発達科学プログラム、芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科においては、それぞれの教育目標にそった専門教育のカリキュラムとして4年一貫の「専修プログラム」を設け、その規定に従って履修する。

3. 学習目標

A 総合的な教養（教養知）

人文・社会・自然に関する知識を備え、領域横断的な視野をもち、独創的な問題意識をもって、多様な人々とコミュニケーションできる総合的な基礎力

B 高度な専門性（専門知）

確かな専門知識にもとづき、情報を収集・処理し、論理的に思考し、科学的に分析する力

C 実践力（実践知）

自身で問題を発見し、知識を応用し、議論し、倫理性や公共性に関心を持ちつつ、解決する力

D グローバル・リーダーシップ

多様な文化を理解し、グローバル社会の諸問題を理解することができる外国語力をもち、国際的視野をもって発信・交渉・行動する力

○文教育学部

1. 教育目標

人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や発達、言語・文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、人間とその文化や社会の諸現象を多方面から分析し、多くの人々と理解しあい行動することができる人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および文教育学部の教育目標に掲げる人材の育成を目的として、学科（人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科、およびグローバル文化学環）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（人文科学）を授与する。

A 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学を基軸とした総合的な教養

B 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学の高度な専門性

C 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学に支えられた実践力

D 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学を生かしたグローバル・リーダーシップ

人文科学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、人類がつくりだす思想・倫理・美、人類が歩む歴史と空間について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく考察力、実践力やリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人文科学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①哲学・倫理学・美術史プログラムは、テキストや図像の分析を通して、基礎的で総合的な視野をもった「考える力、行う力、感じる力」を身につける。
- ②比較歴史学プログラムは、日本、アジア、西洋という地域の歴史を俯瞰し、総合的に把握できる思考力を身につける。
- ③地理環境学プログラムは、文系と理系の知を地域・場所で結びつける総合力と現実的な諸問題の解決のための、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを身につける。

言語文化学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、日本語と日本の文学、中国語圏の言語・文化・社会、英語圏の言語と文学、仏語圏の言語・文化・社会について、当該の言語を高いレベルで学習し、幅広い基礎知識と深い専門的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた人材を育成する。

また、文教教育学部に日本語教育副プログラムを設け、国内外の日本語学習者の多様性を重視した日本語教育に必要な知識と実践力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

言語文化学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①日本語・日本文学プログラムは、日本語・日本文学についての専門能力をもち、それを伝達・発信できる力を身につける。
- ②中国語圏言語文化プログラムは、確実な中国語運用能力をもち、中国の現代文化および古典文化に関する知識と研究方法を身につける。
- ③英語圏言語文化プログラムは、英語学と英語圏の文学・文化に関する専門知識と研究法を習得し、深い思想を英語で正確に理解し発信できる能力を身につける。
- ④仏語圏言語文化プログラムは、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会を理解し、ドイツ語圏をはじめとする他の言語圏の文化との比較考察を行う力を身につける。
- ⑤日本語教育副プログラムは、グローバル化する社会に必要とされる、多様な言語・文化的背景をもつ第二言語・外国語としての日本語学習者の心理を理解し、そのコミュニケーション能力を向上させる理論や方法に関する知識と実践力を身につける。

人間社会科学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、人間の社会意識と行動、人間形成や発達、子どもが育つ環境や文化について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間社会科学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間や社会を広く根本的に見通す力量を身につける。
- ②教育科学プログラムは、人間と教育のあり方についての豊かで創造的な思考力を身につける。
- ③総合人間発達科学専修プログラムは、教育から人間や社会を広く根本的に考察して得られる知見を、幼稚園・小学校とい

う教育現場で実践的に生かすことができる力量を身につける。

- ④子ども学プログラムは、生きた子どもに即して子どもを取り巻く課題を考え、人間および社会や文化の生成過程および構造について探究する力を培う。

芸術・表現行動学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、音楽や舞踊に代表される芸術および表現行動について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識と実技力を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力やリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

芸術・表現行動学科が開設する専門教育のカリキュラムはそれぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①舞踊教育学専修プログラムは、舞踊やスポーツといった人間の表現行動を理論的に分析する能力、およびこれを実演・適用できる実技力や実践力を身につける。
- ②音楽表現専修プログラムは、理論と実践を高い次元で融合し、音楽や音楽史の理論を演奏に反映しうる実践・应用能力を身につける。

グローバル文化学環

1. 教育目標・特色

人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科が共同で設置するプログラムであり、総合的な教養をもち、文化を越えた協働を実現するため、グローバル化の進む現代世界で求められる幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識とそれにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

グローバル文化学プログラムは、文化の差異を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協働することができる、知識・スキル・倫理・行動力を養成することを学習目標とする。

○理学部

1. 教育目標

総合的な教養をもち、人類がこれまで蓄積してきた自然科学領域における知識と理論を深く学び、新たな謎を科学的手法および態度を用いて解き明かすための探究の心と技を持ち、自然と人間とがかかわる様々な領域において、多様な人々と協働して新たな価値を創造できる人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および理学部の教育目標に掲げる人材の育成を目的として、学科（数学科、物理学科、化学科、生物学科、および情報科学科）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（理学）を授与する。

- A 自然科学を基軸とした総合的な教養
- B 自然科学の各分野における高度な専門性
- C 自然科学の方法論に則った主体的な研究実践
- D 理学的態度でリーダーシップを発揮する意義の理解

数学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、基礎および応用としての数学的素養を身につけ、論理的に問題を捉え解決する能力を持

つ人材を育成する。

2. 主要な学習目標

数学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①数式を理解し、数式で書き表し、様々な数学的概念を用いて物事を考えることができる力
- ②複数の概念に共通する性質を抽象化することができる力
- ③概念を具体例で表現すること、数量的かつ論理的に考えることができる力

物理学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、物理学の探究によって還元論的かつ多面的な観点を持って問題解決能力の向上を達成し、社会の各分野において活躍できる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

物理学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①物理学における重要な基礎的概念を微積分などの数学を用いて表現して理解し、さらに、重要な物理現象についても、可能な場合には実験で自ら確かめる力
- ②自然現象等の一般的な問題に関して、適切な物理法則を適用して説明できる力
- ③実験や観測を科学的に計画・実行し、得られた結果を文章としてレポートにまとめる力

化学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連した化学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

化学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①化学における重要な基礎的概念を理解する力
- ②化学現象に対して、適切な概念や法則を適用して説明する力
- ③実験計画を立てて実験を行い、信頼性の高い実験データを得る力
- ④化学的視点に立脚した科学的文章で、実験結果をレポートにまとめる力

生物学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、「生き物」の複雑で多様な生命現象の理論や知識を深く理解し、さらにより広く高度で応用的または先進的な理論と知識および実践手法を身につけ、人間社会により豊かな知の財産を築くことができる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

生物学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①遺伝子、細胞、発生、進化、生態系、自己複製など生物学における重要な基礎的概念を、具体的事例にもとづいて説明する力
- ②フィールドにおいて生物を観察して種名を同定し、生態学的観点で生物を説明する力

③対照実験の意義を理解し、仮説を検証できる実験を自身で組み立て、結論を科学的に考察する力

情報科学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、プログラミングや数学等、情報科学の基礎知識と手法を広く学んだ上で、特定の数理領域もしくは応用領域において、科学的方法論に基づく情報科学の研究を経験し、学術的成果とそこで培った能力を広く社会に還元しうる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

情報科学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①情報科学における重要な基礎的概念を理論的に説明できる力
- ②自然、社会における諸問題を解析・解決するための数学力とプログラミング力
- ③情報科学的視点に立脚した研究を行い、卒業研究発表会で発表できる力

学際プログラム

1. 学際プログラム設置の目的

理学領域の新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラムであり、理系の学生（理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科）のみ選択できる。

2. 各学際プログラムの学習目標

①応用数理学際プログラム

数学科、物理学科、情報科学科が提供するプログラムであり、数理的方法による諸科学の基礎となる数学と、実際に応用される諸分野を広く学び、数理的方法の有用性を知り、この方法による問題解決力を身につけることを目標とする。

②物理・化学学際プログラム

物理学科と化学科が提供するプログラムであり、物理や化学の主プログラムで学んだ、当該分野の基礎的内容を発展させた専門科目を履修すると共に、相互の分野の基礎的および専門的科目を同時に履修する。それにより、物理学と化学の学際領域で活躍するための基本的な力を身につける。

③ケミカルバイオロジー学際プログラム

化学科と生物学科が提供するプログラムであり、化学または生物の基礎をもつ学生がその知識と考え方を発展させて、生体分子および生物の働きを解明する学際分野へ進むための橋渡しをする。生命のしくみを物質の視点からより深く学ぶとともに、生体物質の構造と機能の解明、ならびに生体機能を制御する物質の合成・創成のために必要な基盤を習得する。

④生命情報学学際プログラム

生物学科、化学科、情報科学科が提供するプログラムであり、理学部プログラムの基礎を習得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供する。生命情報学研究に最低限必要な基礎知識の習得と様々なデータを解析し新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力を身につける。

○生活科学部

1. 教育目標

自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての学際的な学識を身につけ、生活者の立場から、社会で活躍、論理的に分析できる力を身につけた人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および生活科学部の教育目標にかかげる人材の育成を目的として、学科（食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科、心理学科）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（生活科学又は心理学）を授与する。

- A. 生活者の視点に立つ学際的な教養
- B. 生活者の視点に立った自然科学・人文科学・社会科学それぞれの高度な専門性
- C. 生活者としての視点に基づく専門的実践力
- D. 生活者の視点を生かしたグローバル・リーダーシップ

食物栄養学科

1. 教育目標・特色

生活者視点に立った食と健康の専門家、特に食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導的人材を育成する。

2. 主要な学習目標

食物栄養学科の専門教育カリキュラムは以下の学習目標を設ける。

- ①食物栄養科学分野の基礎となる幅広い知識や考え方を習得する。
- ②食物栄養科学分野における各専門領域の高度な専門性を身につける。
- ③社会で応用可能な食物栄養科学関連の専門的実践力を身につける。

人間・環境科学科

1. 教育目標・特色

生活者たる人間と環境との相互作用に関する理解を備えるとともに、生活面での諸課題に対して科学的手法を応用することで、人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間・環境科学科の開設する専門教育プログラムにおいては以下の学習目標を設ける。

理工系の基礎学力を身につける。さらに、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置づけた上で、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせるための具体的な対策を社会に対して提案し実践する能力を身につける。

人間生活学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養を持ち、生活者の視点から、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチから探求し、人間と生活に関する専門的な知識と思考力、実践力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間生活学科の開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①生活社会科学プログラムは、生活者の視点に立ち社会科学の高度な知識と研究方法論を自在に使いこなす力を身につける。
- ②生活文化学プログラムは、生活に根ざした文化論を基盤として、人文科学の見地から、真に豊かな生活とは何かという生活の理念を考え、行動できるような知性を身につける。
- ③ジェンダー論副プログラムは、人間と社会に対するジェンダーの視点に基づく分析力を身につける。
- ④公共政策論副プログラムは、社会に生じる新たな現象・問題を実証的な実践分析に基づき解明する力を身につける。

心理学科

1. 教育目標・特色

生活者の視点から、人間の行動や心とその健康に関する知識を習得し、客観的かつ総合的に理解し探求する力、人の成長と適応を促進し、支援する力を備えた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

心理学科の開設する専門教育プログラムは以下の学習目標を設ける。

人間の行動や心に関わる事象への論理的で分析的な思考力、幅広い心理学的研究力を養うと共に、それらを社会や実生活で創造的に生かす実践力を身につける。

消費者学学際プログラム

生活科学部共通の学際プログラムとして、消費者学学際プログラムを設け、人間生活について、消費者の視点から学際的・総合的に分析・考察する力と、能動的消費者としての実践力やリーダーシップを身につける。

2 カリキュラム・ポリシー

本学の教育目標を実現するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、グローバルな視野をもって思考し、国内外で活躍できる女性を育成する。

1. 総合的な教養教育（コア科目－リベラルアーツ・基礎講義・外国語・情報・スポーツ健康）を基盤に、創造力と実践性を備えた高度な専門的能力を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たすことができる力を身につける。
2. 文系と理系にまたがるリベラルアーツ科目群（テーマにそった系列）を履修し、公共性に関心をもって幅広い教養を習得し、各々のテーマに即した能動的学習を通じて、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を身につける。
3. 学修者が主体的に学ぶことができる複数プログラム選択履修制度によって、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修する。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する主プログラムを履修する（必修）。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する（選択必修）。さらに第3のプログラムとして、副プログラムや学際プログラムを履修することもできる。これによって、高い専門性に支えられた多様な実践力を身につける。
4. 卒業研究・卒業論文が必修となっている。自らテーマを設定し、確かな専門知識にもとづいて、情報やデータを収集・整理し、論理的に分析することによって、知識と思考と行動をむすびつけ、問題を解決する力を身につける。
5. 実践的な外国語科目や国内外での実習・研修科目や海外交流協定校への留学によって、国際的視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を身につけることができる。
6. 双方向的活動、自律的活動、協調的活動の3つのコンピテンシーを育成するキャリアデザインプログラム科目群の履修や、課題解決型の学習・実習を通じて、教養教育や専門教育で培った知識を社会で実践するための行動力を身につける。
7. 学部・学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得、管理栄養士受験資格、一級建築士受験資格、ならびに社会調査士資格、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。
8. カリキュラムにおける授業科目の順次性と体系性が示されたカラーコードナンバリングを、学修の順序の目安とする。主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導と、GPA制度に基づく厳格な成績評価により、学びの質を向上させる。「お茶の水女子大学アカデミック・エシックス」に基づき、学修する上での倫理を初年次から学ぶ。
9. 専門や専門領域を超えた多様な学修を経験するとともに、大学内外の各種活動も対象とした学修ポートフォリオを作成し、大学における幅広い学修の成果および学習目標の達成状況を可視化する。

○文教育学部

1. 人間の文化と社会への関心を核とし、人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と高い外国語力を身につける。
3. 人文科学、言語文化学、人間社会科学にかかわる専門教育プログラムと芸術・表現行動学にかかわる専門教育のカリキュラムにおいて、講義・演習・実習などの多様な形態の授業を通して、人間の文化と社会の複雑な事象を追究・分析するために必要な知識や技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科（人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科）の開設する主プログラムまたはグローバル文化学主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これによって、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを身につける。
5. 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学の高度な専門性を自らの力とするために、卒業論文ないしは卒業研究を必修とし、教員の指導のもとに、研究テーマにかかわる資料やデータや研究文献を収集し、これらを解説・分析し、一定の結論をもった卒業論文ないしは卒業研究を完成する。
6. 学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得ならびに、社会調査士、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

人文科学科

1. 人間の文化・社会について、深く幅広い知識を習得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データを収集・整理した上で、独自の論理を築き上げる総合的な力を身につける。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、2言語以上の外国語を履修し、人文科学の基礎力を身につけるため、学科共通科目を4科目以上履修する。
3. 人文科学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①哲学・倫理学・美術史プログラムでは、人類が求めてきた真・善・美という価値に関わる事象について、専門的かつ体系的知識を習得するとともに、それらの価値の問い直しをはかることを通じて、「考える力、行う力、感じる力」を高める。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②比較歴史学プログラムでは、日本、アジア、西洋という地域軸と古代から現代までの時間軸にそって、概説・研究法・講読・特殊講義・演習・調査の6種類の授業科目を設け、相互の比較や連関・交流に着目することで社会全体を俯瞰し、柔軟な思考によって人類史を総合的に把握する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ③地理環境学プログラムでは、自然・人文地理学、地誌学の講義・演習とフィールドワーク・GIS（地理情報システム）・社会調査などの実習を通じて、文系と理系の知を地域・場所で結びつけ、現実的な諸問題の解決のための、センスを磨く。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
4. 中学社会、高校地理歴史・公民の教員免許、学芸員、社会調査士の資格の取得にかかわる科目を履修することができる。地理環境学プログラムでは、これらに加えて、GIS学術士、地域調査士の資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

言語文化学科

1. 「ことば」やそれに基づき生成される文学・芸術について考究するために、各言語の習得やそれらについての体系的理解、また、言語・文学・芸術に対する基本的な研究方法の習得を目指す。日本語教育副プログラムでは、第二言語としての日本語を教えるために必要な知識と技能を習得する。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、2言語以上の外国語を履修し、言語文化の研究の基礎力を身につけるため、学科共通科目を4科目以上履修する。
3. 言語文化学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①日本語・日本文学プログラムでは、概論・文学史・講読・特殊研究・特殊講義・演習の科目によって、上代から現代に至る日本語および日本文学の歴史を体系的に学習し、各時代の文学作品や日本語を正確に深いレベルで理解し、その研究方法を習得する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②中国語圏言語文化プログラムでは、中国語の講読・作文・ヒアリング・会話の授業科目によって、確実な中国語運用能力の養成をはかり、その基礎の上にならって中国の現代言語文化および古典言語文化に関する科目群を履修し、中国に対する総合的な理解を深める。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ③英語圏言語文化プログラムでは、英語学と英語圏の文学・文化に関する講義・演習科目によって、専門知識と研究法を習得し、作文・会話の科目によって柔軟な英語運用能力を習得する。学修の総まとめとして、卒業論文を英語で執筆し、自らの考えを英語で正確に理解し発信する。作成・提出後、口述・審査をうける。
 - ④仏語圏言語文化プログラムでは、フランス語学・作文・会話の授業科目によって、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会に関する講義・演習科目（思想や映画、ファッションや移民問題まで）によってその理解を深め、さらにドイツ語圏をはじめとする他の言語圏の文化まで視野を広げる。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ⑤日本語教育副プログラムでは、グローバル化する社会において、多様な言語・文化的背景をもつ日本語学習者に対する日本語の教育・習得および異文化理解に関する基本的知識や実践的技能を、講義と演習科目などによって学ぶ。
4. 中学・高校の国語、英語、中国語の教員免許の取得にかかわる科目を履修できる。

人間社会科学科

1. 人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たせるように、社会学、教育科学、子ども学の幅広い基礎知識、深い専門的および応用的知識を習得する。

2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、外国語を履修し、人間社会科学の基礎力を身につけるため、学科共通科目を3科目以上履修する。
3. 人間社会科学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①社会学プログラムでは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察するため、社会調査法が必修となっており、社会意識・ジェンダー・社会政策・文化人類学等の主要な社会学的領域と教育社会や子ども社会学・地理学等の隣接領域の講義・演習科目を学び、人間や社会を広く根本的に見通す。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②教育科学プログラムでは、教育思想、教育史、教育社会学、教育方法学、教育開発論等の教育科学諸領域の概論・特殊講義・演習によって、人間と教育のあり方についての創造的な考察を行う。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・発表のうえ審査をうける。
 - ③総合人間発達科学専修プログラムでは、教育思想、教育史、教育社会学、教育方法学、幼児教育学、子ども社会学、幼児教育制度等の概論・演習や、幼稚園・小学校教育にかかわる科目が必修となっており、「教育」という営みを理論と実践の両面から多角的に考察する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・発表のうえ審査をうける。総合人間発達科学専修プログラムは、卒業と同時に幼稚園または、小学校の教員免許を取得できるプログラムで、このプログラムを履修する学生は、第2のプログラムを選択しない。
 - ④子ども学プログラムでは、専門の基礎として、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を多角的観点から学び、さらに附属幼稚園や認定こども園をはじめとする乳幼児教育実践の場に臨み、子どもをめぐる環境、社会、文化、制度、歴史および保育実践等について、理論・対話・実践の一体的な学びを目指す。4年間の集大成として卒業論文を作成・提出し、発表・審査等をうける。
4. 幼稚園教諭、小学校教諭、中学社会、高校公民の教員免許、学芸員資格、社会調査士資格の取得にかかわる科目を履修できる。

芸術・表現行動学科

1. 講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、音楽や舞踊を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見および解決するための実技力・実践力を身につける。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、外国語を履修する。
3. 芸術・表現行動学科は、舞踊や音楽の理論と実技の双方の習得を目的とする専修プログラムを履修する。その方針は以下のとおりである。
 - ①舞踊教育学専修プログラムでは、舞踊芸術学・臨床舞踊論・民族舞踊学・動作学・体育原理などの講義や演習の科目によって、表現行動を理論的に分析するための基礎的能力を習得し、実習や実技によって、理論的成果を実演・適用できる力をつける。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②音楽表現専修プログラムでは、「音楽から世界を理解する」ことを目標に、理論と実践の高い次元での融合を目指す。理論面においては西洋近代のみならず幅広い時代・地域の音楽史・音楽理論が必修となっており、学際的視野に立って問題を提示する。実技力については、学習者のニーズに合わせた基礎から高度な水準に至る声楽・ピアノ演奏の実技科目を履修し、理論を演奏に反映しうる実践・応用能力を習得する。学修の総まとめとして、卒業研究を作成・提出し、口述・審査をうける。
4. 中学と高校の保健体育、音楽の教員免許の取得にかかわる科目を履修できる。
5. 文教育学部の他学科所属の学生が第2又は第3のプログラムとして、他学部所属の学生が第3のプログラムとして履修できる舞踊教育学副プログラムおよび音楽表現副プログラムにおいては、舞踊や運動や音楽の意義について理解を深めるとともに、自らの専門分野との関連を学ぶ。

グローバル文化学環

1. グローバル化の進む現代世界において、多様な文化を越えた協働を実現するための専門的な教育（グローバル文化学主プログラム）が必修となっている。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科の共通のプログラムであり、どの学科の学生も主プログラムとして履修することができ、学科をこえた総合的教育が行われる。
2. グローバル社会に必要とされる外国語（英語など2つ以上の外国語）を必修とし、所属する学科の副プログラムを履修することで、学際的な専門力を身につける。
3. グローバル文化学プログラムでは、グローバル化にかかわる基礎科目を履修したうえで、地域研究・地域文化、多文化交流・多文化共生、国際関係・国際協力の3つの領域にかかわる講義・研究法・演習・実習の科目を体系的に履修する。実践力と多文化理解力を養うため、国内外での実習が必修となっており、留学することが推奨される。学修の総まとめとして、卒業研究を作成・提出し、口述発表・審査をうける。
4. 文教育学部の他学科および他学部の学生が履修できるグローバル文化学学際プログラムでは、学際的な学習を行い、グローバル・リーダーシップを身につける。

○理学部

1. 理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探求する学問である。人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と問題解決能力を習得し、自然との中で展開する人間活動とを扱う様々な場面において、貢献できる力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と高い外国語力を身につける。
3. 数学、物理、化学、生物学、および情報科学にかかわる専門教育プログラムにおいて、講義・演習・実習・実験を通して、理学的態度を身につけて、自然と人間とがかかわる様々な問題を探究するために必要な知識や技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科の開設する主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これによって、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを学ぶ。
5. 自然科学の高度な専門性を自らの力とするために、卒業研究が必修となっている。教員の指導のもとに研究テーマにかかわるデータを収集・解析し、自ら結論を導き、さらに多くの人々と議論し考察を深めて、卒業研究を完成する。
6. 高等学校と中学校の教員免許取得ならびに、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

数学科

1. 数学の基礎的素養として解析学・幾何学・代数学をバランス良く学び、講義で得た知識を、演習・輪講・数学講究（セミナー）を通して実践的に学ぶことにより、抽象化・一般化・厳密性などの数学的論理思考法を身につける。また数理逍遥など応用的素養のための科目も履修する。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 数学主プログラムでは、数学の基礎となる必修科目を中心として、必修に準ずる科目群も学ぶ。強化プログラムでは、分野を特化した高度で専門性の高い知識や能力を養い、現代数学の新しい問題に触れることによって、問題の発見力・構成力を身につける。これらの基礎の上に4年間の数学の学習の総まとめとなる「数学講究（必修）」を履修する。
4. 中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

物理学科

1. 物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野の教育・研究を、一貫性を持って遂行することにより、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ論理的に探究する能力を身につける。物理学の探究を通じて、様々な場面で出会う問題に対して還元論的かつ多元的なものの見方を習得し、問題解決能力を向上させる。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 物理学主プログラムでは、物理学の基礎となる必修科目を中心として学び、問題解決の能力を養うための演習と、物理現象の自発的な発見と検証の能力を磨くための実験を行う。強化プログラムでは、さらに専門性の高い科目群を選択して履修し、物理学の細分化された専門分野での高度な知識を習得し、最前線の研究テーマに取り組むための実力を身につける。各人が課題を設定し、これを首尾一貫した系統的な物理学の考え方をを用いて問題を解決することを目標として特別研究を行う。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、学芸員資格取得にかかわる科目を履修できる。

化学科

1. 化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学をはじめとする自然科学の諸分野、加えて、工学、医学、薬学などの応用的分野の知識が必須となる領域まで広がっている。化学科では、自然科学はもとより、応用科学分野における諸問題、さらには人類が直面する社会的問題をも解決できる論理的思考力や自然科学の基礎知識および研究能力を体得し、柔軟な思考力と優れた問題解決力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 化学主プログラムでは、化学の5つの主要分野である物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学の専門分野の基礎を講義により順次学習し、化学の体系を理解する。さらに化学の研究に必要な実験手法を身につけるために各分野の実験

- を学ぶ。強化プログラムでは、各分野の基礎に立脚し、専門的発展的事柄について講義・演習および実験を通して学習する。これにより、物質の構造、性質、反応に関する理解を深め、化学的視点に基づいた問題解決能力と問題発見能力を習得する。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

生物学科

1. 生物学は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を探究する学問であり、周辺領域の医学、薬学、農学、情報科学などの学問分野の基盤となり、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼす。生物学科では、多種多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 生物学主プログラムでは、生物学の基礎概念を理解するための必修科目および基礎的な実験手法を学ぶ必修実習を履修し、この基礎の上に生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習および選択科目を履修する。その後、より細分化された専門分野における高度な知識を習得できる生物学強化プログラム、または学際プログラムや他学科の副プログラムを学び、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究および生物学演習を履修する。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、博物館学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

情報科学科

1. 情報科学は、「情報」を対象とした数理科学であると同時に、その知見を、コンピュータを介して工学的に応用し、幅広く社会に貢献する学問である。情報科学科では、「計算とは何か」「認識とは何か」といった人間・社会・世界が関わる普遍的な法則性に対する思考力と、変化し続ける現代社会の諸相に柔軟に適応し、問題を解決する能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 情報科学主プログラムでは、コンピュータシステム序論、データ構造とアルゴリズムなどの情報科学の基礎科目、線形代数学、微分積分学等の数学系の基礎科目、プログラミング実習等のプログラミング力を身につける実習科目、コンピュータアーキテクチャ等の情報科学技術の科目を学び、そのうえで特別研究を実施する。強化プログラムでは、情報科学のより細分化された専門分野での高度な知識を習得し、情報科学全体への理解を深める。
4. 中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（情報）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

学際プログラム

①応用数理学際プログラム

数学、物理学、情報科学の3つの科目群から構成されている。数学科目は、数学の中でも、特に応用される事の多い科目から構成される。物理学の科目群は物理学の基礎として重要な科目から構成され、情報科学の科目は数学の応用として捉えやすい科目から構成される。

②物理・化学学際プログラム

物理と化学の学際分野に進むために有用である、両分野の入門的科目（基礎化学、物理学概論）および基礎実験科目を履修し、基礎的および専門的な講義科目を学ぶ。

③ケミカルバイオロジー学際プログラム

化学主プログラムまたは生物主プログラムを履修する学生について必要なケミカルバイオロジー分野の基盤的科目および、それらを発展して学ぶ科目および周辺領域に視野を広げる科目から構成されている。

④生命情報学学際プログラム

理学部の主プログラムを履修する学生が、生命情報学の基礎知識と基礎技術を習得するために、必修2科目と選択必修6単位を履修する。その上で、今までに学んできた主プログラムと生命情報学の基礎とを合流させて、学生自らがもっとも力を発揮できる領域の科目を履修する。

○生活科学部

1. 人間と生活を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力および、情報処理能力を身につける。
3. 食物栄養学の専修プログラムと、人間・環境科学、人間生活学、心理学および消費者学の専門教育プログラムが開設されており、少人数の実験・実習・講義・演習などの多様な形態の授業を通して、公共の利益に資する高度な専門知識、判断力を身につけ、実践の場で応用可能な知識と技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科（人間・環境科学科、人間生活学科、心理学科）の開設する主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これらにより、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを身につける。
5. 生活者の視点に立った高度な専門性を自らの力とするために、卒業論文が必修となっており、教員の指導のもとに研究テーマに関わる実験・実習・資料の収集を行い、そうして得られたデータや資料を分析し、卒業論文を完成する。
6. 学科により、高等学校・中学校教員免許（家庭科）、社会調査士資格、学芸員資格、栄養士資格ならびに管理栄養士受験資格、一級建築士受験資格にかかわる科目を履修することができる。

食物栄養学科

1. 豊かな食生活と健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につける。
2. 幅広くコア科目（教養科目）を履修し、自然科学系などの基礎科目も履修して、広い教養を習得する。
3. 食物栄養学科では、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導の人材として、栄養士免許取得および管理栄養士国家試験受験資格に必要な単位を履修できる専修プログラムが編成されている。その方針は以下のとおりである。
 食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養化学、栄養教育論、給食経営管理論、公衆栄養学など様々な学問領域の専門課程や実験・実習を通して論理的思考を身につける。さらに、管理栄養士の国家試験受験資格に必要な栄養臨地実習を行うとともに、食物と栄養に関する科学研究の専門教育として、各自が設定した特定のテーマについての研究を進め、卒業論文（必修）を完成する。
4. 栄養士免許と管理栄養士の国家試験受験資格が与えられ、栄養教諭の教員免許を取得することができる。また、任用資格として、食品衛生監視員、食品衛生管理者を取得することができる。

人間・環境科学科

1. 環境と人間との間でのアンバランスから生じる様々な問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置づけた上で、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせるための具体的な対策を社会に対して提案し実践する能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）を履修するとともに、人間と環境間の問題解決に不可欠な定量性や客観性といった科学的な思考能力を養うために、自然科学系基礎教育を重視した履修を行う。
3. 数学、物理、化学、生物、情報などの理工系基礎科目を重点的に履修する。この基礎のうえに、関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。人間・環境科学主プログラムでは、理工系基礎学力を発展させるとともに幅広く関連基礎知識を身につける。強化プログラムでは、工学的トレーニングを通じて、設計・評価能力を養うとともに、多角的な知識を総合してイノベーションを創造する能力を培う。卒業年次には指導教員のもとで卒業論文を作成するための研究を行い、生活の質に関連した具体的な応用課題に対する解決能力を身につける。
4. 一級建築士受験資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

人間生活学科

1. 生活者の視点から、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的かつ複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を身につける。
2. 幅広くコア科目（教養科目）と外国語科目を履修し、人間の生活について、生活者の視点から多角的かつ複合的なアプローチを駆使しうる視野と基礎教養を身につける。生活者の視点を学ぶ「人間生活論」を必修科目とし、生活社会科学、生活文化学の概論を履修した上で、専門教育プログラムを履修する。
3. 人間生活学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下の通りである。
 - ①生活社会科学プログラムは、法学、政治学、経済学、社会学の4分野にわたり広く社会科学の知識と家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法といった現代的トピックを、講義や演習や調査法などによって学びながら、社会科学の高度な知識と研究方法論を使いこなす。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・発表・審査を受ける。
 - ②生活文化学プログラムは、服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出してきた文化・歴史を、比較文化論、民俗学、歴史学などの講義や演習、実習によって多角的に探究する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、発表・審査を受ける。
 - ③ジェンダー論副プログラムは、社会科学および人文科学の講義や演習によって、人間生活について、ジェンダーの視点に基づく理解と分析を行う。
 - ④公共政策論副プログラムは、身近な生活問題の発生メカニズムを理解するとともに、統計的分析を重視した実証分析の理論と方法を学び、その解決の方法を考える。
4. 高等学校・中学校教員免許（家庭科）、社会調査士、学芸員資格を取得できる。このほか、消費生活アドバイザー試験に対応する科目を履修することができる。

心理学科

1. 科学的エビデンス、論理的分析力に基づく臨床・応用実践、社会的課題にセンシティブな実証的探求の視点や能力を獲得する。
2. 心理学科では心理学導入科目、基礎講義科目、基礎演習科目、応用実習科目、応用融合科目を履修し、心理学全般及び各専門領域の専門的知識を獲得する。
3. 心理学主プログラム、心理学強化プログラムの履修により、様々な生活領域における課題を解決していくために、自ら問いを立て、科学的に探求し、実証していく方法論を獲得し、心理臨床実践の基本的な姿勢とスキルを身につける。
4. 心理学的研究力や総合的探究力を身につけるため、実証的な心理学手法による研究に基づいて卒業論文を完成させる。
5. 公認心理師受験資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

消費者学学際プログラム

消費者学の基礎となる「消費者科学入門」「国民経済と生活」「消費者法」が必修となっており、消費者にかかわるさまざまな分野の科目を選択履修することで、消費生活にともなう諸問題を、学際的に分析し、実践的な対応策を考える。